

第9章 少年院入院者の動向

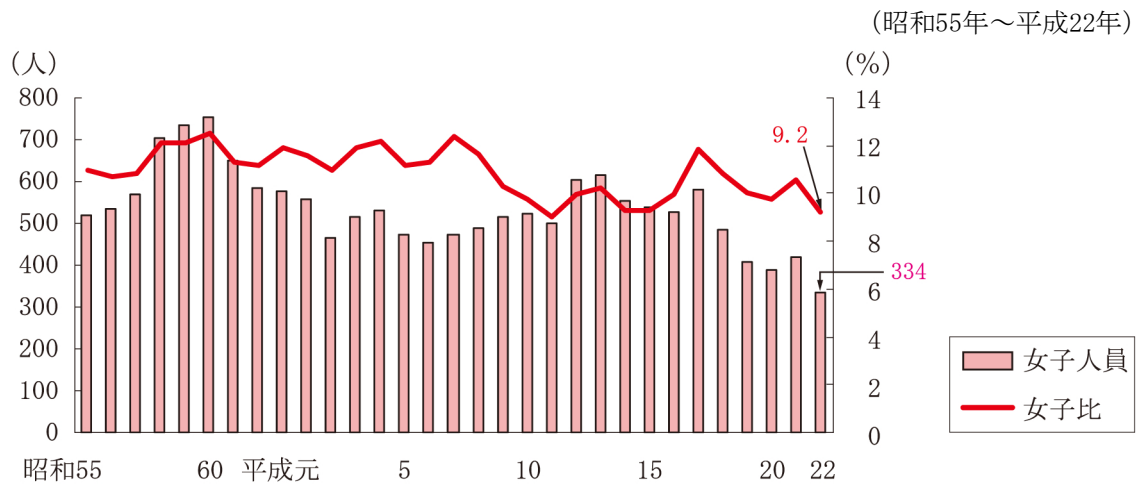
本章では、女子の少年院入院者の動向について、男子と比較しながら概観する。

第1節 入院状況

1 人員・女子比

昭和55年以降の女子の少年院入院者の人員・女子比の推移を見ると、9-1-1図のとおりである。

9-1-1図 少年院入院者 女子人員・女子比の推移



注1 矯正統計年報による。

2 「女子比」は、少年院入院者に占める女子の比率である。

女子の少年院入院者人員は、昭和55年以降増加し、60年に753人（なお、男子は5,276人であり、女子比は12.5%であった。）となった後、減少傾向に転じたが、平成6年を底として緩やかな増加傾向となり、13年に615人となった後は、再び減少傾向となり、22年は334人（前年比20.1%減）であり、昭和55年以降で最少であった。

女子比は、昭和55年から平成9年の間は10%台から12%台の間で推移していたが、10年以降は、ほぼ毎年9%台から10%台の間で推移し、22年は9.2%であった（CD-ROM資料36参照）。

2 入院者の特徴

9-1-2図は、昭和55年以降の女子の少年院入院者の年齢層別構成比の推移を見たものである。

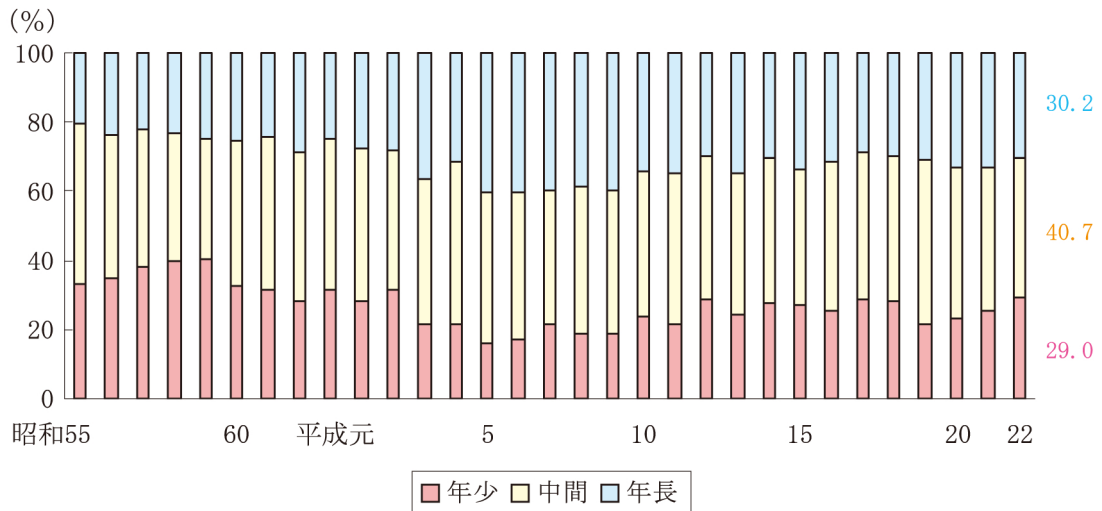
女子の少年院入院者では、中間少年の構成比が30%台から40%台とほぼ毎年最も高いが、

年長少年の構成比は平成2年までの20%台から3年以降はほぼ毎年30%を超える水準となり、逆に、年少少年の構成比は昭和63年までほぼ毎年30%を超えていたが、平成元年以降20%台まで低下している。平成22年は、年少少年29.0%（97人）、中間少年40.7%（136人）、年長少年30.2%（101人）であった。

昭和55年以降一貫して、年長少年の比率は女子が男子よりも低く、年少少年の比率は女子が男子よりも高い(CD-ROM資料37参照)。

9-1-2 図 少年院入院者 女子の年齢層別構成比の推移

(昭和55年～平成22年)



- 注1 矯正統計年報による。
- 注2 入院時の年齢による。
- 注3 「年少少年」は、14歳未満の者を含み、「年長少年」は、入院時に20歳以上の者を含む。

昭和55年以降の女子の少年院入院者の不良集団関係別構成比（入院時）の推移を見ると、9-1-3 図のとおりである。

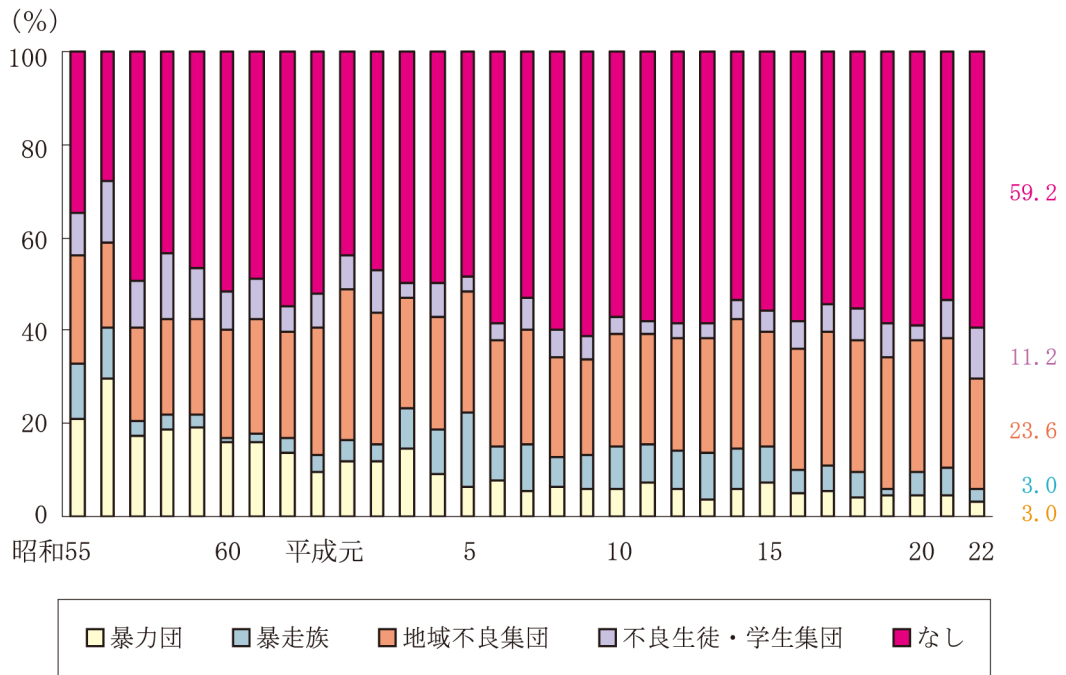
「不良集団関係なし」の構成比が最も高く、昭和55年からおおむね上昇傾向にあり、平成22年は59.2%（196人）であった。

不良集団との交友関係がある者について見ると、平成22年においては、「地域不良集団」との交友がある者（23.6%、78人）が多く、続いて「不良生徒・学生集団」との交友がある者（11.2%、37人）であり、「暴力団」、「暴走族」との交友が認められる者（それぞれ3%、10人）の構成比は小さい。「暴力団」、「暴走族」との交友がある者の構成比は、昭和55年においては高かったが、その後低下傾向にある。

男子と比べ、女子においては、不良集団との交友関係がない者の構成比が高い(CD-ROM資料38参照)。

9-1-3 図 少年院入院者 女子の不良集団関係別構成比の推移

(昭和55年～平成22年)



- 注1 矯正統計年報による。
- 注2 不良集団関係が不詳の者を除く。
- 注3 不良集団関係の有無・内容は、非行時による。

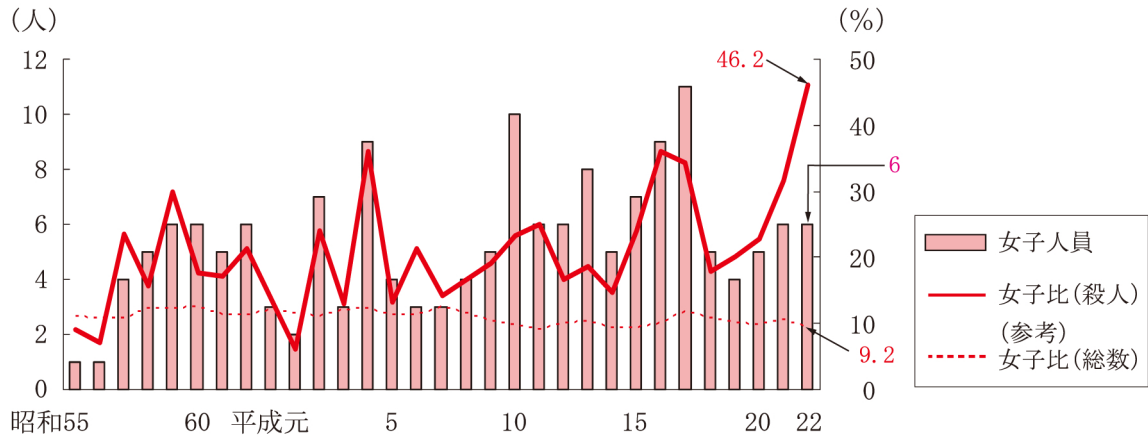
第2節 非行名別の動向

1 殺人

9-2-1 図は、昭和55年以降の殺人による女子の少年院入院者人員の推移を見たものである。その人員は少なく、1人から11人の間で推移している。

9-2-1 図 殺人 少年院入院者 女子人員・女子比の推移

(昭和55年～平成22年)



注1 矯正統計年報による。

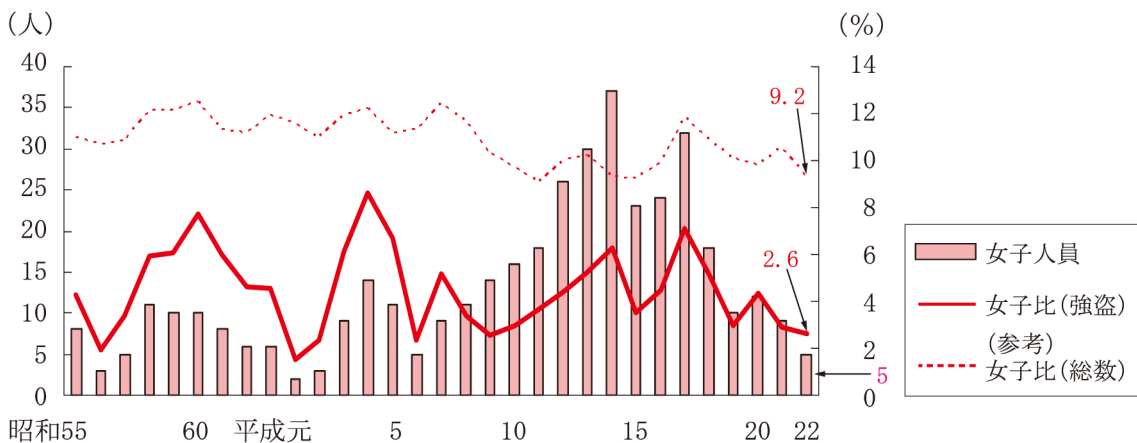
注2 「女子比」は、殺人による少年院入院者又は少年院入院者総数のそれぞれに占める女子の比率である。

2 強盗

9-2-2 図は、昭和55年以降の強盗による女子の少年院入院者人員の推移を見たものである。女子の強盗による少年院入院者は男子に比べて少なく、昭和55年以降の累計で見ると女子比は、4.4%である。その人員は、昭和55年以降15人以下で推移した後、平成12年以降20人台となり、14年に37人に達したが、18年に顕著に減少して、20人未満となり、その後、減少傾向で推移し、22年は5人であった(CD-ROM資料36参照)。

9-2-2 図 強盗 少年院入院者 女子人員・女子比の推移

(昭和55年～平成22年)



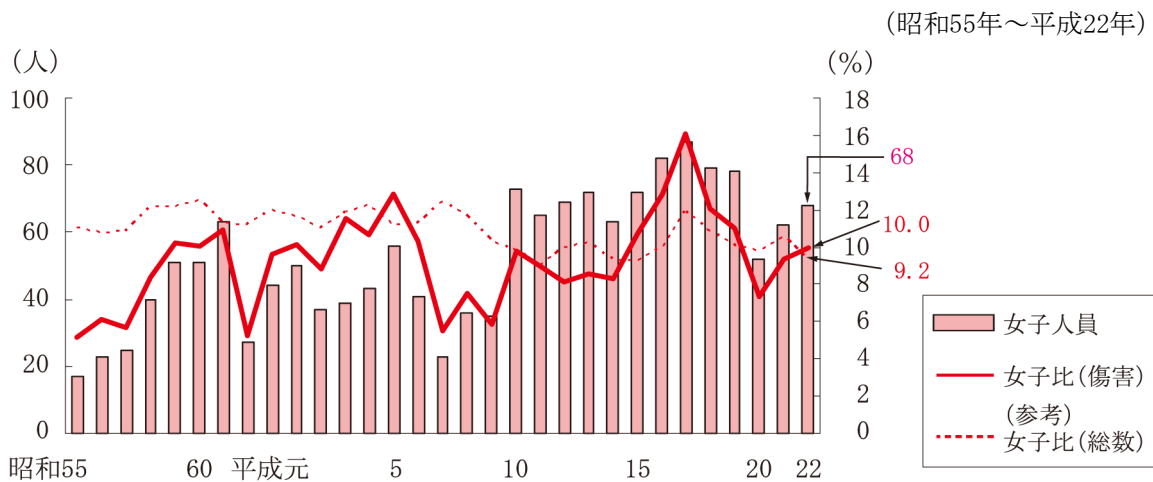
注1 矯正統計年報による。

注2 「女子比」は、強盗による少年院入院者又は少年院入院者総数のそれぞれに占める女子の比率である。

3 傷害

9-2-3図は、昭和55年以降の傷害による女子の少年院入院者人員の推移を見たものである。同年は17人であったが、平成10年以降概ね60~80人前後で推移しており、女子の少年院入院者総数に占める傷害による者の比率は、昭和55年の3.3%から上昇し、平成22年は20.4%であった（CD-ROM資料36参照）。

9-2-3図 傷害 少年院入院者 女子人員・女子比の推移



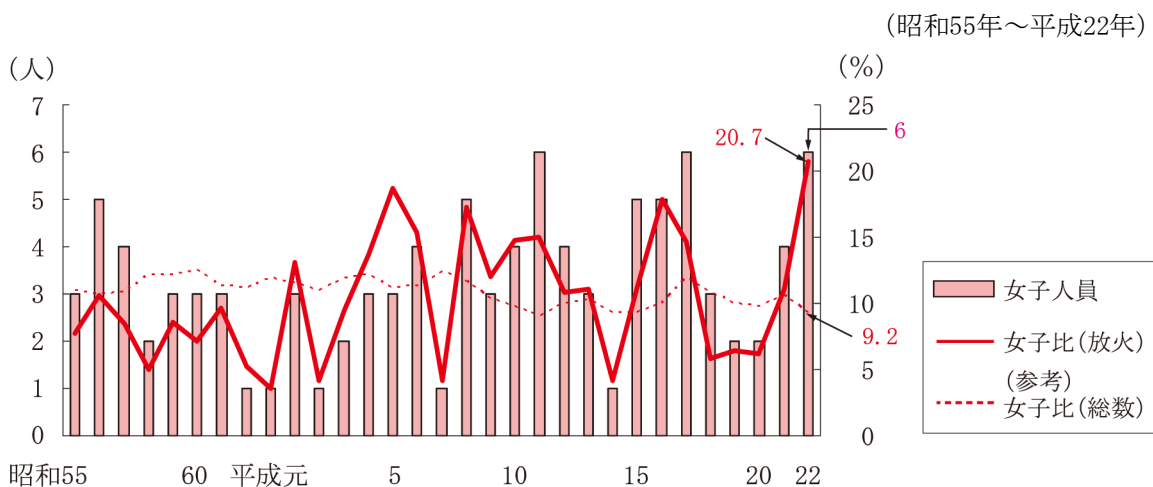
注1 矯正統計年報による。

2 「女子比」は、傷害による少年院入院者又は少年院入院者総数に占める女子の比率である。

4 放火

9-2-4図は、昭和55年以降の放火による女子の少年院入院者人員の推移を見たものである。その人員は少なく、1人から6人の間で推移しており、女性比も、年による変動が大きい。

9-2-4図 放火 少年院入院者 女子人員・女子比の推移



注1 矯正統計年報による。

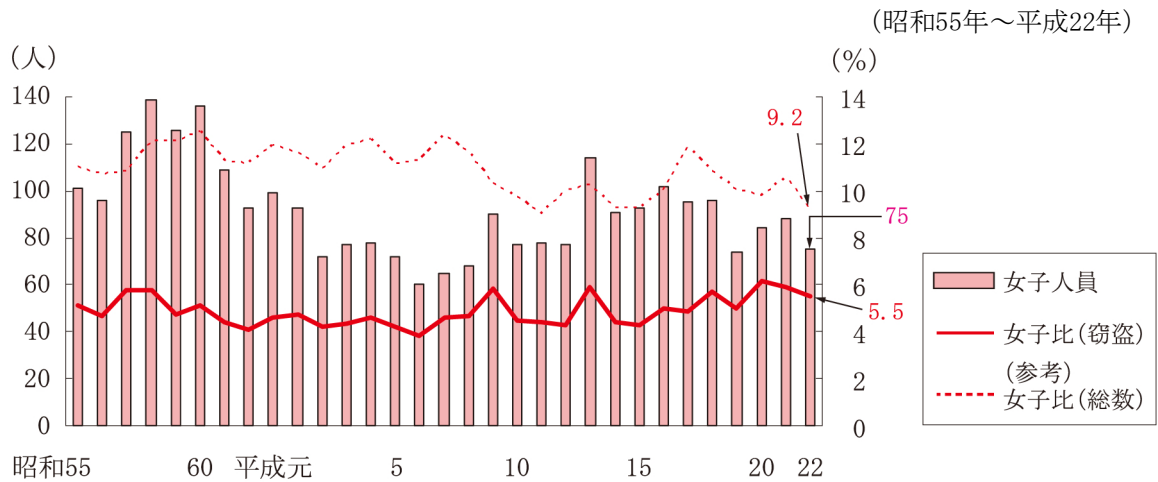
2 「女子比」は、放火による少年院入院者又は少年院入院者総数のそれぞれに占める女子の比率である。

5 窃盗

9-2-5図は、昭和55年以降の窃盗による女子の少年院入院者人員の推移を見たものである。

窃盗による女子の少年院入院者人員は、62年以降、平成13年及び16年を除き、100人を下回っている。女子の少年院入院者人員に占める窃盗の比率は、平成18年以降20%前後（平成22年は22.5%）であり、入院非行名としては高順位であるものの、男子（平成15年以降40%前後で、22年は39.2%）と比べ、その比率は低い。窃盗における女子比は5%前後で推移している（CD-ROM資料36参照）。

9-2-5図 窃盗 少年院入院者 女子人員・女子比の推移



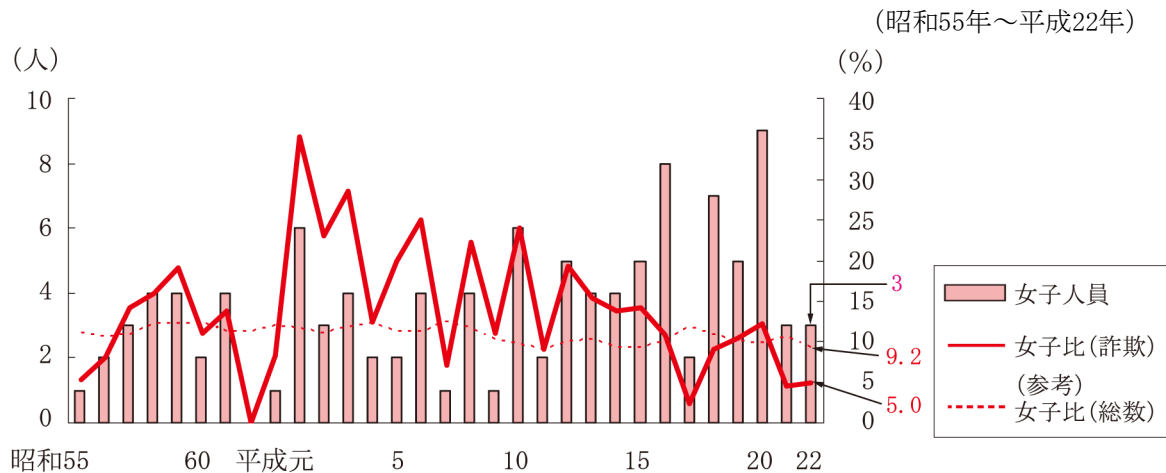
注1 矯正統計年報による。

注2 「女子比」は、窃盗による少年院入院者又は少年院入院者総数のそれぞれに占める女子の比率である。

6 詐欺

9-2-6図は、昭和55年以降の詐欺による女子の少年院入院者人員の推移を見たものである。詐欺による女子の少年院入院者人員は少なく、近年男子においては増加傾向が認められるが、女子においては男子のような増加傾向は認められない。

9-2-6図 詐欺 少年院入院者 女子人員・女子比の推移



注1 矯正統計年報による。

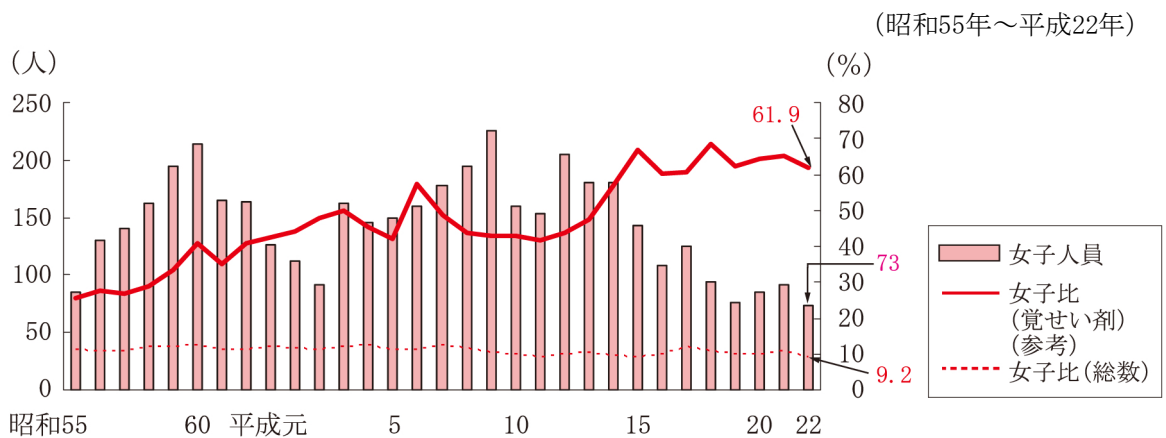
2 「女子比」は、詐欺による少年院入院者又は少年院入院者総数のそれぞれに占める女子の比率である。

7 覚せい剤取締法違反

9-2-7図は、昭和55年以降の覚せい剤取締法違反による女子の少年院入院者人員の推移を見たものである。

同人員は、56年から平成17年までほぼ毎年100人を超えていたが（9年に最多の225人）、18年からは100人未満で推移し、22年は73人であった。覚せい剤取締法違反は、女子の少年院入院者の非行名として高順位にあり、女子の少年院入院者人員に占める覚せい剤取締法違反の比率は、9年には43.8%を占め、その後、低下したものの、ほぼ毎年20%前後の水準を維持している。また、14年以降、女子の覚せい剤取締法違反による少年院入院者の数は男子の同法違反による少年院入院者の数を上回っており、22年の女子比は61.9%であった(CD-ROM資料36参照)。

9-2-7図 覚せい剤取締法違反 少年院入院者 女子人員・女子比の推移



注1 矯正統計年報による。

2 「女子比」は、覚せい剤取締法違反による少年院入院者又は少年院入院者総数のそれぞれに占める女子の比率である。